

Historical Materials about the Regional Accounts in Kaga Domain (II)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: UEDA, Hisao メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058212

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



加賀藩領の万雑関係史料（二）

上田 長生

紹介にあたって

前号に引き続いて本号でも、加賀藩領における地域的入用である万雑に関する史料を紹介する。はじめに、各史料について簡単に説明しておく。

史料4～8は、前回同様に天保一一年（一八四〇）に始まった万雑改革関連史料である。史料4・5は、十村達が務めた代官役に関わって、その実務を担った下役人である手代の不正を防止する目的で行われた給銀の規定等である。蔵入地の年貢は、藩領各地の御蔵に納められたが、収納時に手代が「こぼし米」として米を僅かずつ取得する不正が絶えず、百姓の不満が募っていた。これに対して、十村達は手代の俸給を明確化することで不正を防止しようとした。俸給は御郡万雑・組万雑から拠出されたため、万雑見直しの一環として改革が行われたのである。

史料6は、前号で紹介した村役人給や交通関係の負担に関わる十村の「相談書」。史料7は、藩の諸役人が出役した際にどれほどの経費を負担するのが適当か、十村達が郡奉行・改作奉行に答えた覚書である。史料8は、鋤役米の徴収方法の規定である。鋤役米は、

組才許十村が管轄する組の一五～六〇才の男性から一人二升ずつ毎年徴収した十村の俸給である。その徴収方法も組によって区々であったように、弘化四年（一八四七）に杉木相談所、つまり越中国砺波郡の十村寄合で定則が定められた。史料8の後半では、加賀河内郡の十村達が砺波郡をはじめとする諸郡を参考にして、新開所での徴収方法を規定している。

史料9～11は、嘉永六年（一八五三）に藩からの指示で再び始まった万雑改革に関わる史料である。この改革は、維新後まで継続するもので、大部の関連史料が存在するが、いずれもほとんど紹介・分析されていない。次号以降数回にわたって、嘉永・安政期の関連史料を紹介していく予定である。

今回掲載した史料9は、嘉永三年に能登国口郡（羽咋郡・鹿島郡）で独自に十村達が定めた組万雑の取り決めである。これまであまり検討されていない組の運営に関わる記述もみられる。史料10は、嘉永六年に藩が組万雑の廃止を命じた触書と、それを受けて十村達が提出した伺書への藩側の指示である。史料11は、こうした十村内での協議に関わる史料で、十村達が寄合を繰り返しながら、万雑改革を進めた様子が窺われる。

4、天保一二年「御代官方等二付留帳」

(富山大学附属図書館・川合文書竹〇四三二〇〇)

(表紙)

〔後筆〕
「竹四」

御代官方等二付留帳

川合

諸郡御扶持人・十村并新田才許・山廻御代官納方之義二付、先達而相伺置候趣、此度被仰渡有之、詰合御扶持人相談覚書

一御扶持人等御代官納方二付被下口米之内を以、別紙小紙之通納手代共へ雜費方相渡、不正之取扱不仕趣意二候得共、雜用渡高取極不申而者、御郡々区二相成候二付、相談之上、老石二付大綱老升宛為雜用方主人々々相渡、納方之節前々被仰渡置候通、こほし米等聊も不仕、下方煩敷筋無之様為相心得可申、併過分之納高、

殊二短日之節人多斗入候二付、自然与塵目払石二式三合程も可有之訳、其上納手代人欲二迷ヒ、こほし米いたし候而ハ嚴重之御礼方二相成、不容易場二至り可申候間、御扶持人・十村得与示合、御侍御代官并与力明知・御借知御手合他之御支配所等蔵宿納方如何可有之共、御扶持人・十村納方不正之族有之而者、才許村々輕キ者共難儀之筋不少、此度被仰渡之御趣意急度相守候得者、御代官諸手合共自然与不正之納方不相成場江至り可申事

但こほし米等不仕、納方之義村々江可申渡候
一古米斗立之節、欠米引足等、并升廻後御封下之上、御蔵雨漏等二而損米之義其御代官方相弁可申事

一諸郡御蔵々々下敷之義、斗下村々々可致所、遠方村々々持運下敷仕候而者、雜費多相懸候二付、是迫其所々御代官宿或者納手代引請下敷仕候分者、御郡々々是迫取扱之通可然事

一御代官分村々之内、納手代銀納相懸候分も有之体、銀納一切相成不申事

一新田才許之内、組才許有之面々之外、新田才許・山廻自身納之義御伺申上置、追而御指図可有之事

一諸郡番代始手代共給銀、去々年以来書上置候、此度重而相伺候処、未御詮儀中二付、追而御指図可被成下、先御詮儀中者去年廻之通相心得可申、別而近年嚴重被仰渡之儀も御座候間、相談方等心得も可有之旨訳而被仰渡候二付、同役并才許中得与示合、区二不相成様相談取極可申事

一惣御預御代官一郡切冊数二口米配当可仕旨、此度御紙面を以被仰渡候、是等者越御代官有之人々、乃至無組御扶持人五冊之内自郡

二而耆冊与か、残り四冊之分加劬三郡之内ニ而相渡居申候、越中三郡御扶持人・十村過半耆冊方三冊余迄、加劬方江越御代官并口郡・砺波郡江越御代官有之分冊数ニ口米配当可致、且又其御郡々御扶持人・十村之内式人、新田才許・山廻り之内老人指加り相納、決算之上口米配当高先名之御扶持人方越御代官人々江申来候様可仕事

八月

詰合
御扶持人

諸郡御扶持人・十村等御代官納方之儀ニ付、先達而御伺申上置候所、納手代共こほし米等いたし、下方迷惑之筋茂有之二付、前々方納方不正無之様嚴重被仰渡有之所、近年致心得凌、下方煩敷筋不少間、御扶持人・十村并新田才許・山廻納方ニ罷出候手代共年分為雜用方被下口米之内を以相渡、此末村々迷惑之筋無之様可仕旨、詎而被仰渡奉得其意申候、当時詰合人々相談仕、今般被仰渡之御趣意奉畏申候、諸郡同役等江得与示合、此末手代共不正之納方不仕様急度申談、猶更村々江茂此段可申渡義ニ奉存候、依而私共御請小紙を以申上候、以上

子八月

折橋善兵衛
石黒源丞
廣瀬又八郎
林孫右衛門

御改作

御奉行所

天保十年分惣御預御代官分

一九千四拾五石三斗五升	能美郡
外二百五拾六石七斗八升四合	被下口米
一貳千貳拾四石九斗五升八合	石川郡
外二四拾石七斗壹合	被下口米
一三千八百九拾三石八斗六升三合	河北郡
外二七拾七石八斗七升七合	被下口米
一三千六百四拾四石六斗八升八合	口郡
外二七拾貳石八斗九升四合	被下口米
一壹万九百四拾五石九斗七升七合	奥郡
外二貳百拾八石九斗貳升	被下口米
一三千八百八拾八石五斗三升壹合	砺波郡
外二七拾七石七斗七升壹合	被下口米
一千三百五拾九石八斗三升貳合	射水郡
外二貳拾七石壹斗九升九合	被下口米
一千九百四拾七石八斗四升	上新川郡
外二三拾五石八斗七升七合	被下口米
一千四百八石壹升壹合	下新川郡
外二貳拾八石壹斗六升	被下口米
本勘米高	
三万八千五百五拾九石五升	
口米高	
七百三拾六石壹斗八升三合	

右諸郡惣御預御代官御米高并口米高書上申候、以上

子八月

右於金沢加劔三郡同役并折橋善兵衛・三輪宇八郎・宝田宗兵衛寄合、相談之上書上候分写

子九月十六日

於中田砺波・射水
先名人々寄合

(内表紙)

天保十一年九月

御代官方等二付申談方等覚書

砺波
射水
上下
新川郡
御扶持人

当八月三劔御扶持人等御代官納方等之儀二付、詰合御扶持人別冊覚書之趣一統納手代江得与申談、半口米為雜用方相渡候上者、納方之節こほし米等少も不仕様急度申渡、猶更主人々々方も念頃二可申談事

一 組才許中方納方之節、こほし米等不正之族無之儀村々江可申渡、就夫御代官人々々半口米石二付老升宛、納手代江相渡候義も村々江可申渡支

一 新田才許・山廻自身納之義、追而御改作所より御指図有之節、併指懸御蔵方二相成候時ハ、先新田才許等自身々々納方二罷出有之様、一郡々々御扶持人々於寄合所可申談候支

附組当分才許有之新田才許之儀ハ、手代二為納可申事

一金沢番代等初并御郡手代給銀之儀、此度被仰渡候通御詮儀中、去年迄之仕来を以渡方取扱可仕、就夫手代之内二も御用立候者与年若成者或者算算不慥者、および二三男近ク召仕候人々も有之、給銀渡高主人々々大綱図り高之所、御扶持人江及相談、一郡洩々之取斗無之様人撰之上、納人相極可申義、先達而手代給銀一郡切大綱図り高、三劔共御役所江書上置、少々宛給銀高速も有之候得共、遠御郡六郡ハ大体図高相似寄申候、先去年迄之振を以渡方取扱候様御談二付、加劔三郡・善兵衛在府中御扶持人中江及演述候、奥郡・口郡之義ハ三輪宇八郎等江及演述、奥郡江申通候事

一 番代給銀之義、御郡々是迄相定居候銀高を以、夫々可申談支

一 番代悴給銀三百六拾目可相渡支

一 加劔等江越御代官分納手代為給銀、今度詮儀之上御代官老冊納高

二 式百目宛可相渡支

一 番代手伝人給銀三百目可相渡事

一 無組御扶持人手代

四百目 御郡方

式百目 主人方

六六百目

外六石七斗五升 御代官米^式冊納方仕候
代三百三拾七匁五分 得八、半口米
五拾目かへ

一御扶持人手代

百目 御郡方

式百目 組方

式百目 主人方

〆五百目

外二六石七斗五升

代三百三拾七匁五分

〆八百三拾七匁五分

一平十村手代

式百目 組方

式百目 主人方

〆四百目

外二六石七斗五升

代三百三拾七匁五分

〆七百三拾七匁五分

一^(朱書)無組御扶持人二番手代

三百目 御郡方

式百目 主人方

〆五百目

一御扶持人式番手代

百目 御郡方

式百目 組方

式百目 主人方

〆五百目

外二四石 返上米大体四百石之半口米

代式百目 五十目かへ

此分返上米無口米之品故伺置候、
追而可及指図事

〆七百日

一平十村二番手代

式百目 組方

式百目 主人方

〆四百目

外二四石 返上米大体四百石之半口米

代式百目 五拾目かへ

此分右同断

〆六百日

一御扶持人三番雇手代

式百目 組方

百五拾目 主人方

〆三百五拾目

外二^〆籾納之義ハ無口米二付、半口米二

当ル、可相渡品ニ付御役所へ相

伺、追而可及指図事

一手代給銀等取極候上ハ、組方諸書物調候而も、料銀并年玉物・音

物等都而取請申間敷、猶更村々江此段可申渡置候事

子九月

^(朱書)々々々

一^(朱書)一番代給銀之義、御郡々々是迄相定居候銀高を以、夫々可申談事

一番代せかれ給銀三百目六拾目可相渡事

一番代手伝人給銀三百目可相渡事

一加刃等江越御代官分納手代為給銀、今度詮儀之上、御代官一冊

納高二式拾目宛可相渡事

一組相定居候手代兩人、外二雇手代召仕、誓詞可致事

一御代官米并返上米糶納、納手代之義ハ組才許々々おゐて致人撰、御扶

御扶持人詮儀之上納人取極可申支

一惣御預納方之義ハ、御扶持人之内老人、十村之内老人、外新田

才許・山廻之内老人、年々納方当番相立、納手代之義ハ其御

郡切人撰を以取極可申事

子九月

(内表紙)

天保十一年九月

内分相談覚書

砺波
 射水
 上下
 新川
 御扶持人

内分覚書

一組相定居候手代兩人、外二雇手代老人召仕、誓詞可致事

一御代官米并返上米糶納、納手代之分者才許ニおゐて致人撰、御扶
持人詮儀之上、納人取極可申支

一惣御預納方之義ハ、御扶持人之内老人、十村之内老人、外二新田
才許・山廻之内老人、年々納方当番相立、納手代之儀者其御郡
切人撰を以取極可申支

一越中方ハ加劬三郡并能劬江越御代官納方、時節指急候二付、砺波
郡高岡屋金藏等四人・射水郡越中屋和兵衛等兩人・新川郡田井屋
鉄藏等兩人江前段納方心得、善兵衛方得与申談候、堂形等殊之外
納方蔵初御指急之旨、加劬御扶持人中申聞有之二付、夫々談申候
間、砺波・新川越御代官納手代両御郡御代官人方其段紙面を以可
申遣事

一御代官納方并諸郡手代給銀等、去年以来御達申上置候所、甚夕六
ヶ敷御趣意御座候而、御奉行宛御達方不容易候所、此度御詮儀中
之趣を以御聞濟被成候上者、表立急度可被仰渡義難相成御意味合
も有之御様子ニ候、就夫善兵衛方申上候者、三劬江および候品ニ
候間、一郡々名先之御扶持人江御談方被下候様申上候所、善悪
とも一統江被仰渡候而者人氣相立可申、先當時詰合御扶持人迫得与
示合候上、覚書を以相伺候様被仰渡、則相談之品々加劬三郡同役
并追出府有之候石黒・三輪・宝田等両三度寄合、別冊覚書御達申
上候所、則御加筆被成、清帳相調上置候、いつれ御改作方動向何
分以前江立戻候心得二而、万端前段之御趣意間違無之様善兵衛方
諸郡先名之御扶持人江可及演述旨被仰談候
但此度砺波・射水同役示談之趣、御代官納方等并手代給銀取
極、且人柄二より給銀渡高立用之義ハ才許中詮儀之趣承り、

都而御扶持人方人撰指引可致事

事

子九月

一御扶持人・十村御代官半口米相減、暨組割替等有之、自然与諸郡共御役料平均二相成、人々被下方相減迷惑之筋二付、御扶持人并十村半口米之分御役料御増方可被成下御内意二候得ハ、何与モ口得共、是ハ身当リ之出義故、御役所向御證儀振二候得者、何与モ申出△御奉行衆へ△致兼候訳二候得共、先達而以来○善兵衛方御内御敷申上置候二付、詰合御扶持人寄合之節別冊覚書中二書上候所、身分敷之儀内分二候間、指省候様御談二付、去与モ御扶持人・十村等右之御趣意少シ心得居不申而者、半口米減方有之、行当候義二候得ハ、是等之所前段之含含を以諸郡仲間一統何与欵品能及演述、区二不相成様示談之趣加覚書ニ、御代官納方等之義指当り候品迄御改作所方被仰渡、諸郡江示合、当更如以前十村才許ニ去二月被 仰出候二付、幾重ニも御改作御仕置古法ニ立戻候様、御扶持人相談いたし、不急度同役并組才許中等江夫々申諭、此三・四ヶ年以來事繁敷○時節与凌、いかにも村々取扱方物静かに相心得、仲間合ハ不及申、村々役人共為致会得候様相互ニ談合仕、然上者善悪をも御役所向方御書取等を以時々被仰渡候而者、又候御仕法「も」相替り宋書御杯与下方必氣立候而者、早竟下々不穩儀相成可申、右等之義第一御扶持人格別存込、自然与古法之勤向貫候様示合可申義二候、近年之勤向心得方相改、仲間合和談を以一郡々々取仕抹方可致之処、御扶持人常々相心得凌乱不仕候様取治可申支

附此趣意新田才許・山廻中江も御扶持人相談之趣心得古法之趣可申談支、新田才許列・山廻列御縮高主付相勤候人々○可申談

私十七日方小杓ニ而仲間寄合仕、私義廿二日新庄江夕方二着、伊東・宝田両氏寄合、昨廿四日相仕廻、今日帰村仕候、兼而御内談申上候納方等之義示合申候、就夫手代給銀之内無組御扶持人式番手代相洩居候二付、別冊ニ書入申候、且又内分相談覚書も文段相談之上少シ引直シ申候二付、式冊共上申候間、先帳御引直可被下候、且又御同役様等写被成候ハ、是又御引直被下候様仕度候、右帳面私方ニ而写老通上度図之処、今夕方帰宅仕候故、私分飛脚ニ上候、御写取一兩日中ニ御返被下候様仕度候、且又分役中江ハ別紙覚書拔出シ人々為写取候

一返上米并糶納無口米之品二付、御改作所へ相伺、御指図を請可申、幸貴所様近々御出府有之候ハ、御達被下候様於中田御相談申上置、今度伊東氏等へ及相談候所、品能訳も有之、何れ来十月廿日過新川・射水も出府、其節御相談申上候上、可然与申事ニ御座候間、今度御達方為御見合被下度候、右要文迄飛札を以如斯ニ御座候、以上

子九月廿五日夜
折橋善兵衛
得能覚兵衛様

当八月御扶持人等御代官納方等之義二付、詰合御扶持人別冊覚書之趣一統納手代江得与申談、半口米為雜用方相渡候上者、納方之節こほし米等少も不仕様急度申渡、猶更主人々々方も念頃ニ可申

談事

一納才許中納方之節、こほし米等不正之族無之義、村々江可申渡、就夫御代官人々半口米石二付老升宛、納手代江相渡候義も村々江可申渡支

一新田才許・山廻自身納之義、追而御改作所方御指図有之筈、併指懸り御藏納方ニ相成候時者、先新田才許等自身々々納方ニ罷出有之様、一郡々々御扶持人方於寄合所可申談候事

附り組当分才許有之新田才許之義ハ、手代ニ為納可申支

子九月

御扶持人

此分分役中へ可相渡覚書

御代官米納方并手代給銀之義ニ付、今度折橋善兵衛射水・新川示談有之所、先達而之覚書文段少シ引直之分も有之旨等、別冊写之通申来候ニ付、引直シ之ヶ所朱ニ而直シ別冊相廻候間、先日御写取置之分加朱通御直シ可被成候、且又分役中江之覚書も別冊末ニ写置申候、幸此節尿物方ニ杉木源助・福野村六兵衛出府いたし居候ニ付、右兩人江写相渡、同役中へ内々申通有之様ニと申置候、此状等御自身写ニ被成、御封印、飛脚を以先々急々御廻達、留方別冊とも私方へ御返可被成候、以上

子九月廿九日

得能覚兵衛

荒木平助様 埴生佐十郎様
長田金右衛門様 苗嶋弥次右衛門様
野尻六郎右衛門様 権正寺助九郎様
埴生佐次兵衛様 石崎市右衛門様

安藤次左衛門様 中田源五郎様

大西加左衛門様 三清与一郎様

田中小四郎様

右十月朔日金沢ニ而長田氏方私宅へ到来候ニ付、同三日石崎氏へ飛脚ニ而送ル

覚

一式百五拾石 砺波郡惣御預御代官米之内

右其許儀当年一作納方申渡、右納米本勘之内老升宛為雜用相渡候之条、兼而申談置候之通、不正之義等無之、正路ニ納方可有之候、尤御藏之義ハ追々可及指図候、以上

庚子九月

得能覚兵衛

荒木平助

石崎市右衛門

長田金右衛門

安藤次左衛門

手代

源四郎殿

覚

一六百石 砺波郡惣御預御代官米之内

右其許儀当年一作納方申渡、右納米本勘之内老升宛為雜用相渡之候条、兼々申談置候通、不正之義等無之、正路ニ納方可有之候、尤御藏之義ハ追而可及指図候、以上

庚子九月

得能覚兵衛

残而五石九斗式升九合

荒木平助

一 壹石四斗式合

熊木御蔵

石崎市右衛門

内三斗五升壹合

納方雑用米等

長田金右衛門

残而壹石五升壹合

安藤次左衛門

一 壹石式斗七升五合

笠師御蔵

手代
五郎右衛門殿

内三斗壹升九合

納方雑用米等

残而九斗五升六合

天保十一年子十二月

一 式石七斗式升

田齋濱御蔵

惣御預御代官分被下口米割符帳

内六斗七升六合

納方雑用米等

口郡

残而式石式升六合

一 式斗壹升四合

野崎御蔵

内五升四合

納方雑用米等

惣御預御代官分被下口米

残而壹斗六升

一 五石五斗式升

今濱御蔵

一 壹石九斗壹升六合

所口御蔵

内壹石三斗八升

納方雑用米等

内四斗七升九合

納方雑用米等

残而四石壹斗四升

一 式石壹斗式升五合

塵濱御蔵

残而壹石四斗三升七合

大町御蔵

内五斗三升壹合

納方雑用米等

内四斗五升

納方雑用米等

残而壹石五斗九升四合

一 四石五斗五升式合

川尻御蔵

残而壹石三斗四升八合

金丸御蔵

内壹石壹斗三升八合

納方雑用米等

内壹斗

納方雑用米等

残而三石四斗壹升四合

一 七石九斗五合

富木御蔵

惣米ノ式拾九石八斗九合

内壹石九斗七升六合

納方雑用米等

雑用米ノ七石四斗五升四合

残而式拾式石壹斗五升五合

内三石之内

式石壹升四合

惣手代

小兵衛

給米渡り

六石五斗八升

御郡手代

九兵衛

給米渡り

引残而

拾三石七斗六升壹合

但御代官本勘米高式万三千百六拾石

壹升五合二割、此征五九四壹七〇九壹九

此割方

八升

安藤次左衛門

但今濱御藏

外人々畧ス

暖和弥増二御座候所、各様愈御清康御勤達珍重奉賀候、然者去々子
年惣御預御代官分被下口米割符方御尋越被成候二付、相調理候所、
子年十二月別冊之通割符仕、御藏所切各様へ指進候様組々江申遣、
則割符帳共相廻置申候、然所頃日聞調理候所、今以預り居候向も有
之旨、組々申越候間、いまた御受取不被成御人々者、別冊之通御
藏所切御印章之手形を以御請取可被成候、何時ニ而も相渡候様申遣
置候間、左様御承知可被下候、此廻状向寄々早々御順達納より宇八
郎方へ御返可被成候、右之趣得御意度如斯ニ御座候、以上

寅
三月三日

三輪宇八郎

當摩太間
北村宗助
五十里庄助

宝田宗兵衛様 石崎市右衛門様
長田金右衛門様 安藤次左衛門様
齋藤庄五郎様 杉木弥助様
結城七郎左衛門様 金山伊三右衛門様
大西加左衛門様 東長江彦右衛門様
中川善左衛門様 嶋理三郎様
小林宗七郎様

各様越御代官分当り口郡惣御預被下口米仕出帳、并御扶持人中紙面
共相廻候二付、金藏申渡写為致、并紙面写とも指進申候間、御請取
御廻達可被成候、以上

三月十日

得能寛兵衛

石崎市右衛門様 長田金右衛門様
安藤次左衛門様 大西加左衛門様

石川郡惣御預口米、古田并新開

銀納別株共被下口米算用

一拾五石式合 本堂形
一四合 鶴来
一式石式升六合 松任
一式拾式石八斗七合 本吉

一四石六斗三升九合 宮腰

四拾四石四斗七升八合

内式拾式石式斗三升九合 納方為雜用渡

残而式拾式石式斗三升九合

代老貫三百七拾八匁八分式厘

平抱六拾三匁宛

但御代官冊數五拾九冊二割

老冊ニ付式拾三匁三分七厘宛

一式拾三匁三分七厘 大西

一四拾六匁七分四厘 安藤

一九拾三匁四分八厘 伊東

※ 本史料中の抹消・記号や行間の書込は全て朱書。

5、天保二年「手代給米取極候一件等覚書」(抄)

(富山県立図書館・杉木文書□□才)

村々江申渡之覚

一御郡方御代官納方等、是迄時々御仕法有之内、去春御仕法復元之趣を以御潤色被 仰渡、前レ已之通十村等御代官被仰付候二付、取扱方等御詮義有之、尚春来被仰渡之趣有之二付、諸郡示合、伺之上先ッ御詮義中之趣を以、今般一様取扱方相定り候趣、左之通

り二候事

一御扶持人・十村御代官分納方之義、手代ニ為^相納申二付、為造用等被下口米之内半高手代江相渡、こほし米等一切為致申間敷事

一新田才許・山廻り御代官之義ハ、自身々直納之事

一御蔵下敷ハ斗下村々方為致可申処、是迄多分御代官宿納人等へ引渡相弁シ候分も有之旨、此義ハ在来通り二候事

一御扶持人・十村手代之義、是迄村々方年頭物等少々宛之音物も有之様子ニ候得共、去年已来御詮義之趣有^も之、諸郡同役共等衆評之上、以後無組御扶持人并御扶持人手代江主人方相渡候給分之外、

御郡方も引足相渡、且御扶持人・十村手代之義も大体老人江式百

目宛引足相渡シ、右音物杯ハかたく相止ミ候様嚴重可相心得義ニ

候、依而不正之筋無^聊之様手代共へ急度申渡置候得共、猶更其心得可有之候事

子十月

※ 5は内容的に4とほぼ重複するが、4にみえない記事を掲げた。

6、「旧記 二 天保一丈久」(抄)

(富山大学附属図書館・菊池文書KKB0五三五〇〇〇)

相談書

一算用帳御案文并諸郡窺写取之通、才許手前熟与会得仕候組惣代役

人江申談、早速為致承知可申事

但算用帳案文惣代役人江為写取可申事

一組之内村柄を見指、式三ヶ村去年米方・錢方并人足遣村普請買物等帳面引揚可致穿鑿事

一当植付後二至り候惣代役人暨組之内慥成役人為主附、右算用帳仕立方并今度相改候御趣意を以^(マ)迄之村々穿鑿為致可申、乍併何分才許手前二おゐて成限り手を尽、仕来相改候様二厚世話可致事

一村々肝煎扶持米御取極之趣夫々申渡、且村々扶持米高取極兼候義も可有之、左様之分ハ取しらへ、詮義之趣御郡相談可仕事

但惣様扶持米高・組高切村寄御書記、四月中書出シ可申事

一組合頭料米并御扶持人等廻村之砌、飯米代一件二付御郡所被仰渡、早速村々江可申談候事

但分役中江者才許方急速可申遣事

一居村江買返高時節御取極、御改作所御紙面組才許切之心得二而触渡候者不申事^(マ)

一崎田様当晦日、岩瀬方御移之筈申来次第、瀬一郎等方廻文可仕、御昼等不指支様、今度村書上之通写取可申事

但新田才許中江可申遣事

一大聖寺様今度増人足入用式拾人、百式拾文宛償相渡可申事

一大聖寺様馬借所小杓問屋場二而相立候義、先年方馱問屋之役向与被存、座賃償候義不相当事

一殿様御通り為寄人足、近年猥二相成申二付、当年ハ格別嚴重二いたし度、出役大門等方追々委曲ハ可申談候得共、御通節組々手代中・村役人慥成者役付申渡、手支無之様急度相心得可申事

7、(天保一一二年)「掌記冊 式冊之内一」(抄)

(富山大学附属図書館・菊池文書KKBO七四三〇〇〇)

覚

一御郡御奉行所御上下

一御改作御奉行所同断

一定檢地御奉行所同断

一外作事御奉行所同断

一出船御奉行所并御米川下御奉行所同断

一難船御奉行所同断

一御馬方御役人中

一矢昆竹御奉行所同断^(籠)

右御奉行所一御泊御老人五百文、若党中老人三百文、小者老人二百

文、同御昼御奉行所御老人三百文、若党中老人二百文、小者老人百

五拾文与余荷取極候ハ、可然与奉存候

但足輕中ハ若党中同様図方二御坐候

一与力中

一御徒中

一御算用中

一矢昆方御矢師中^(籠)

一御細工所鞍木御用御役人中

但御老人一御泊四百文、小者老人二百文、同御昼御老人二百五拾

文、小者老人百五拾文与余荷取極候ハ、可然与奉存候

一魚津改方御奉行所・今石動御奉行所御郡方御巡見之節、御宿余荷

之義ハ御人数多、御昼・御泊所方ニおゐて幾重とも省略詮義仕可申候

一公事場御檢使之節、御宿余荷方右同様之義ニ付、其時々省略詮義仕可申候

右諸御奉行所諸郡御廻之節、御昼・泊ニ余荷方書上可申旨、先達而被仰渡、諸郡私共相談詮義之趣御達申上候間、猶更御指図被成下候様、小紙を以御達申上候、以上

丑七月

天保十二年也

石黒源丞

廣瀬又八郎

林孫右衛門

三輪宇八郎

狩野恒方

得能覚兵衛

折橋善兵衛

金山十次郎

伊東次郎左衛門

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

8、弘化四年「緞役米取立方組々取極寛」

(石川県立歴史博物館・新田家文書五八二)

一 緞役米取立方組々区々ニ付取極

一 百姓自身六拾歳^老ニ相成、其家内ニ緞役米指出候者有之候へハ、自身分取立不申、其家内ニ緞役米出候者無之候へハ、仮令六拾歳^老ニ相成候とも、高・面老人分取立可申、頭振ハ自身并子弟とも六拾歳^老ニ相成候得ハ取立不申事

一 百姓死絶或ハ幼少者且跡目不立、後家・孀ニ而も高有之者ハ、高

・面老人分并子弟とも六拾歳^老迄之者取立可申事

一 掛作高持并寺社・町人高持之分ハ、高・面老人分充取立可申、子弟ハ取立不申事

一 肝煎之義、居村ニ而其身老面^老適用捨、子弟其余算用間同列并組合

頭・御鳥見并肝煎等ハ取立可申事

一 高持并頭振之内、病身等ニ而開作用立不申、無抛分ハ半面或ハ用

捨之詮義組才許ニて了簡次第之事

一 六月以前病死之者ハ半面、七月末病死之者ハ丸面取立可申、走り人之分も右ニ准シ候事

一 新開高之義、惣高付廻之分ハ取立不申分持之株緞役米取立方、天

保六年末十月寄合ニ而一統相談之上、左之通取極置候通可相心得

候事

一 新開高惣高廻之外、分持之株緞役米取立方之寛

一 持高老斗方以上之分ハ、丸面式升宛取立可申事

一 持高五升方以上、九升九合迄之分ハ、半面老升宛取立可申事

一持高五升二不足之分ハ致用捨候事

右ハ新開高株大小ニ不^(抱)抱、右之通取極候事

未十月

但惣高廻之分ハ取立不申事

杉木寄合

頃日御内談ニおよび候新開所歛役米取立方之義、左之通

一定免新開

一極高御廻り免新開

此二口歛役米人別ニ取立可申事

一定免新開ニ而、古田惣高付廻シ之分

一請高新開

此二口歛役米取立中間敷事

右之通諸郡ニハ先前より取立来り候旨聞合、今日林氏江及示談候

処、御互ニ取立候様被申聞候間、左様御承知可被成候、以上

弘化四年

未

十一月廿九日

毘多市十郎判

伊藤源次様

能瀬与兵衛様

森瀬平様

森下金右衛門様

追而御承知之上、御封印を以先々御順達、落着より御返可被成候、
以上

9、嘉永六年「諸万雑方御触留」(抄)

(宝達志水町教育委員会・岡部家文書三六一七)

嘉永三年八月

組万雑仕立方僉儀帳

口郡

御扶持人

十村

一組方万雑方ニ打立、是迄手代江為書物料与三拾貫文或ハ貳拾貫文
杯与相渡来候得共、已来手代兩人分一組方六百目充万造方ニ打立
相渡候事ニ取極候、依而外ニ書物手間料杯一円為請取不申候事

一拾五貫文 組番徒給銀

外飯米老石八斗

右之外相増申義不相成、組ニ寄是迄麦進メ等いたし候番徒有之由、
已来給銀之外一円不相成、尤右給銀方少キ分者其通可為事

一金丸相談所寄合之節者、御扶持人・十村并手代ニ至迄出扶持定之
米代相払可申、四分・式分宿料之義者相談所止宿ニ付払不申事

右之外雑用方者、都而寄合之分御郡万造方余荷可申筈之事

一組方諸書物手余り手伝書役料、是迄組ニ寄四貫五百文方七拾七貫
文余迄組万雑之表ニ顯シ居申候、右書料之義者已来ニおゐて一卜
組四拾貫文方過当無之様可遂詮義事

一筆・墨・朱墨者手代老人前式拾目充、紙代之義者已来式拾五貫文
方相増申間敷、其余過当之分ハ其才許方相并可申、成限り減方心

懸、万雑方打立方相減候様可遂詮義候事

一 組々飛脚賃之儀、是迄万雑帳之表銀高甚々不同、別而一青組過分
二 相見江候間、内輪得与遂詮義可申、已来村向ニ而可取立分も可
有之、御郡用江附候書物・組用書物・村用書物与相混シ飛脚遣候
分者、都而三口江割当可取立管二候、従来口郡飛脚遣方老里何程
凶二候哉、砺波郡杯ハ一里三拾文位方過当無之体二候得者、当御
郡之義者難道山海右御郡与ハ品逶候向も有之候得者、大底右之割
合を以其里数ニ応取図り、成限り万造減方可遂詮義事

一 番代方御用状外組届方申越候節、飛脚賃先組方請取可申、新田才
許等江届候分者、御郡余荷より請可申事

一 御奉行所等諸役人町立・宿立宿余荷方之儀、定銀一卜泊り老人式
匁五分、昼老匁五分与相立、是迄方ハ格別相減、万雑方銀高相減
候様可遂詮義事

一 於村々諸役人宿余荷之内、新田才許新開方御用ニ付相廻り候分ハ、
新開高等ニ割当可取立管二候、用水方ハ用水加入銀請候村々図り
銀高割符可取立事

一 御蔵方雑用之内下夕敷入用、組万造を以取立候分在之、已来蔵下
納米高ニ応シ村切可取立管之支

一 御蔵方雑用等蔵下夕村々江割符可取立品を、組万造方取立候儀在
之候、是等ハ詮義方不綿蜜、已来其筋々々江付取立方等可遂詮義
事

一 三貫文 御用所非常蠟燭

右組々万雑帳之表甚不同有之候、已来前段之外過当之分ハ裁許方
可相弁事

一 所口役屋敷江罷出候番代岩井屋五郎兵衛御書替取次料之義、組々
三拾目充ニ取極有之所、土田組・一青組過当ニ相見得候、已来拾
壹組共三貫文ニ相極、増方一円相止メ可申管之事

一 手代金沢等江召連人有之節ハ、都而宿料式分ニ米代相払可申、此
分ハ其主人方相渡、其余ハ一件懸り之者方余荷可申事

一 附り組才許方手代御用ニ付出府為致候節、或ハ才許出府中召
連候時者、才許方宿料等都而相渡可申事

一 村役人中是迄棟取肝煎方致廻状、寄会いたし、右雜費方過分組万
造ニ打立、組惣代与して金沢江罷登り雑用方万造ニ相頭シ有之候、
甚不相当、已来何事ニ不寄、寄会候節者組才許指図ヲ受、寄会惣
代共可相弁管之事

一 万造調理方いたし候節、已来一組ニおゐて儘成ル役人三・五人程
充一作切ニ組才許人撰を以取極、其人々ニ為相調理、村々役人ニ
為見候而銀錢取立可申、尤調理帳入念ニ認メ、組才許見届メ高致
印章置可申事

一 右万雑調理役人才許宅等手近之者ニ候ハ、焼飯持參為致為相調
理可申、若手遠之者ニ候ハ、下宿為取料銀可相渡事

但雇料・宿料之外老匁五分之事

一 寺社家奉加、已後一円組万雑ニ相立申間敷支

一 五穀成就御祈禱料之義、格別之事

一 愛宕火防祈禱之儀者家・面方出候共、高割ニ致間敷事

一 御出船同様ニ而、商人渡之御米濱出人足賃者、御米請人方相弁候
欵、其時々遠所日用才許手合ニ而可相弁所、右人足賃組万造へ相
立候訳難相訳候間、其子細当月廿五日限り組々才許方金沢表帮助

方江可申遣事

一 御郡役先等之方ニ吉凶有之共、音物代抔万造ニ相立申間敷事

一 組中惣代之義者組才許方致指図指出可申、右指図請不申、仮令組

一 統之義尤成筋を達方等ニ歩行候共、都而指図無之分ハ組万造ニ

相立申間敷事

一 為惣代祝事或ハ凶事ニ致上下着用罷出候惣代料銀之義ハ、常並惣

代料与逡程能見斗相渡可申事

一 組ニ寄御扶持人等方江惣代年賀ニ罷出、惣代料銀万造ニ相立候義

在之、且番代長右衛門方江家見舞ニ罷越候入用等、猥成ル義とも
候間、加様之分指止メ可申事

右ヶ條之外、尚追々劣畧有之、組万造銀嵩ニ不相成様遂詮義可申答

之義ニ御坐候事

嘉永三年庚戌八月

金丸相談所取極

※ 一七頁下段四行目の手代召連人宿料等に関する箇条について、

「萬雜方記録」（金沢市立玉川図書館近世史料館・郷土資

料〇九〇―一四）には朱書で以下の注記がなされている。

「〇此分安政二年十一月一統衆評之上、以来ハ宿料者主人不口、手

代方身出ニ取極、村方方不取立事ニ取極、主人手代間柄之義

ハ其時々相対ニ可弁事」

10、安政二年「万雑方一件」（富山県立図書館・杉木文書赤八八七）

（表紙）

<p>安政二年八月</p> <p>杉木有一</p> <p>万雑方一件</p> <p>〔朱書〕</p> <p>〽せ</p> <p>上条組</p>

猶々諸郡伺帳等両冊相廻候間、急速御写取、飛脚を以御廻達可被
成候事

村万雑を始、組合割之品等都而村々ニ而打割いたし候節、才許手前
ニおみて口々厳重遂詮儀、見届印章を請可申候、尤近年詮儀方等閑
ニ相成居、帳上ニ頭レ不申不当之品も有之候間、右等之処厳密遂穿
鑿、先達而御郡万雑諸郡伺長御指図之格ニ御随ひ御詮儀可被成候事

如 七月廿九日

御扶持人 印

組々
御才許中様

尚々諸郡打銀并御郡打銀申来候節、乃至百石高二拾匁懸り之処、外
打割物も打込、拾二・三匁も御郡打銀等之名目を以打割いたし候組
々も有之体ニ候間、右打銀割符も御見届被成、右様之儀無之様御詮
儀可被成候、自落着彦四郎方へ御返可被成候、以上

(内表紙)

嘉永六年癸丑五月

御郡万雑等立方被仰渡一卷

御郡方万雑立方、是迄御郡万雑・組万雑・村万雑与三通り二相成居候得共、以来組万雑ハ指止、御郡万雑・村万雑与兩様二相立可申事

一 是迄村万雑之内江御郡万雑方引足候分有之候、以来右様兩万雑方
五二引足之義一切指止可申候

一 番代給銀之義ハ御郡万雑方三貫目取立可申、番代手伝給銀之義ハ番代方可相渡候、右番代手伝給銀之義ハ五百目を限召置可申、少銀之儀ハ不苦候事

一 手代給銀之義ハ御郡万雑方十村老人江老々五百目取立可申、右銀高二而不足いたし候ハ、十村方引足可申事

一 御郡所二出役所二罷在候惣代給銀老々年五百目宛、御郡万雑方取立可申事

但老役所老人宛二取極可申事

一 無組御扶持人召仕候走り給銀、諸郡共無組御扶持人老人五十目宛給銀御郡打銀方取立可申事

一 料紙代之儀ハ其組之大小御用方之多寡二随ひ、打切可相渡候条、大抵入用高取可書出候事

一 諸郡十村等於金沢寄合之節、所々二おゐて寄合候義無用、老ヶ所二極置可申、遠郡之分ハ御郡所二おゐて寄合可申、其節(箇)簡番出役可致候、右入用方ハ御郡万雑方取立可申、其外臨時寄合之節者成限り相談所二おゐて寄合可申、入用方万造方取立候事不相成候間、寄合之人々方指出可申事

一 大聖寺境屎物改番所實之義、御郡万雑方取立可申事

一 御郡方方金沢江之書状、三度或ハ飛脚所へ指出、相届候御用状賃銀、御郡万雑方取立可申事

但右指出候時々通長二記、詰奉行印章を請置可申事

一 御郡所等方指出候飛脚賃、御郡万雑方取立可申事

但右同断

一 御郡所・改作所方所々江指出候飛脚賃之儀も、御郡万雑方指出可申事

但右同断、御郡奉行・改作奉行印章請置可申事

一 相談所火盜為用心指置候番人給銀、老ヶ所式百目御郡打銀方取立可申事

一 御詰米方入用銀半高、代官方可指出候、残半高御郡万雑方取立可申事

一 砺波郡川下方二入用之飛脚賃等、御郡万造方取立可申事

右之通相心得可申、天保十一年砺波郡方何出候別冊諸郡江も及演述置候管二付、今般右砺波郡之分重而御詮義之上指省候品等致披見、改而相渡候条、得其意、尚更兩様引合相洩候ヶ所等有之候ハ

、重而可伺出候、以上

癸丑
五月

三劔
御郡奉行
印

改作奉行
印

諸郡

御扶持人
十村中

右万雑方之儀ニ付御触紙面相廻候ニ付、指上申候間、夫々御廻達、
落着方御返し可被下候、以上

丑

五月十二日

番代
平次

結城七郎右衛門様

神保嘉一郎様

神保助三郎様

生地前名様

入膳和七郎様

泊与三左衛門様

入膳紋三郎様

三位組

御用所

※天保一二年七月「村万雑取立方高懸・家懸等振分取極儀奉

伺申帳」省略。

(内表紙)

嘉永六年六月

万雑方之義ニ付奉伺申帳

諸郡

万雑方ニ付先達而相達置候伺冊御付札を以御渡ニ付、為御承知相廻
申候、^(ママ)從落着方御返し可被成候、以上

丑

十月廿六日

五十嵐孫作

諸郡

御扶持人中様

村万雑之義、砺波郡方伺帳之内、朱引被成御渡之ケ條寛

御付札

(朱書) 一〇 本文其元中詮儀之通承届候事

一 御知行出百姓分持参出府、雑用泊賃并日用賃等

一 御給人等夫銀上ニ付、雑用泊賃并日用賃等

一 御皆済請取人日用雑用

但此三口御給人附百姓出府いたし候哉、又八百姓廻り番与欵ニ
いたし、番之出府等仕候得共、雑用万造ニ打立不申而も可相弁
答ニ御座候得共、百姓之内高嵩作配仕候而も、左様之義弁得不

申者も有之、尤人別出府仕候而ハ、人々費多罷成候故、根元入用為可相減、同苗之内ヲ惣百姓江雇揚、指出申義ニ御座候間、別而夫銀上ケ并御皆濟狀請取方杯、小村ニ候得者、老人ニ而式・三ヶ村も相兼候得者、弥雑用減少ニも可致義御座候間、是迄之通高懸りニ而取立候様被仰付可被下候

御付札

(朱書)

〔〇〕 本文給人収納米、是迄之振合ニ而式重皮ニ仕立、村余荷ニ相成候分ハ取調理可相達、以來雑用ハ其給人方可相渡事ニ取極へく候事

一 御給人之内式重俵之分余荷

但御給人知式重俵ハ大体御給人方賃銀御渡被下候得共、中ニハ別々之御格合之旨ニ而、御渡不被下分御座候得共、左様之分当年方式重俵仕立不申儀、御給人江被仰渡可被下候

(朱書)
御付札

本文成限精誠尽時々書出指図を請可申事

一 石砂入等之ヶ所起返余荷

但百姓持高二応シ割取候御田地等石砂入等ニ相成候分、外百姓方償方村毎ニ定有之、中ニハ乃至百歩之内五歩石砂入等損所ハ其田主之損与相立、五歩以上ハ年貢償相渡候義等御座候、此償渡候ヶ所を村人足を以起返いたし、如元ニ致候得者、以後償不用ニ相成候故、右人足之余荷之事を記シ候義ニ御座候間、成限省略為仕可申候得共、相止ミ候様ニハ成兼可申与奉存候

(朱書)
御付札

本文書出請指図可申事

一 川除御普請所番米

右者庄川筋村々川除押請仕候ヶ所ハ、下モ村方上村へ立登り、他村領江押請仕候、右ハ川上方入川仕候得者、水中ニ相成候村柄ニ付、右之通之次第ニ而、川上江家建為仕番方申付、出水之節村方へ注進為仕候、其内成限り為指止可申候得共、長間之川除御普請番相立可申ヶ所ハ取極御達申上候

(朱書)
御付札

本文村走りを以可相弁候事

但品ニ寄藤内ニ而可然

一 浪人・虚無僧并乞食宿入用、并右ニ付人足料

但村々ニ而宿取極候義、砺波郡・射水郡ハ去八月御郡所方被仰渡相止申候、其内浪人等罷越候得者、往還筋へ可送出、右人足ハ入用御座候間、余荷可仕与奉存候、諸郡とも同様相心得可申候

(朱書)
御付札

候

此式ヶ条本文之通承_置候事

一 家内変死之者見届方雑用并人足料

但其家主方為相弁可申品ニ御座候、併難渋ニ而出道無御座候得者、村余荷ニ可仕義与奉存候

一 村方難渋人、死人在之節焼手間

但独身等之貧者相果候節、藤内へ渡候焼手間ニ御座候、随分長立候者共等方相弁、万造ニ相立不申様可仕旨可申渡奉存候

(朱書)
御付札

本文春秋祭礼之儀、人々志次第ニ候得共、成限相減可然、且

神主・山伏杯宿為致候義指止可申事」

一春秋兩度氏神祭礼御祈禱料并宿入用

但平等二五穀成就安全之祈禱仕候故、高方・面方より右入用
相弁来、宿入用与申ハ神主・山伏之宿入用ニ御座候、此度朱引
ニ而被仰渡候二付、以来ハ祭礼之節祈禱料人々志次第為指出、
宿ハ長百姓廻り番与欵ニ相弁可申哉与奉存候

一組万造指止候儀奉得其意候

一御參勤并大聖寺様御通行之節○森下・津幡御小休等之砌余荷、御郡村々助人

馬余荷方、御郡余荷・組万造兩様方余荷来候得共、以来御郡方万
雜より相渡可申義与奉存候

〔朱書〕
一御下札

此条ヶ所巨細ニ致詮儀、以来諸郡打銀を以可相渡哉、得与詮義も
の

御付札

本文五ヶ山組万雜帳翌年正月申可相達候事、五ヶ山万雜之儀
本文之通承届候事」

一砺波郡五ヶ山両組、是迄御郡万雜割符指除ニ相成居、御郡へ指出
不申、近年御郡所雜用家別之分込取立候得共、纒之義ニ而可然、
五ヶ山ハ御取扱も里組与替り居候間、五ヶ山之儀組余荷之品ハ前別
段是迄之通可被仰付置哉奉伺候、右組余荷之品大綱、左之通ニ御

座候

〔朱書〕
一御付札

惣代役人之義繰々相勤、余荷ニ及不申事」

一御献上漬狗・脊干狗脊御用ニ付、今石動江持出候飛脚賃、右ニ付

惣代役人日懸り等

下ヶ札

五ヶ山之義、延宝四年里方村々肝煎扶持米図り通りニ而、壹
石米直段四拾目替ニ而銀子取立ニ相成申候、然処天保十一年
里方村々肝煎扶持米ニ割増被仰付候得共、五ヶ山ハ是迄之
通ニ而増方不仕、御用ニ出候分ニ余荷付候得者、扶持米増方
仕候方ハ村々為宜敷ニ付、其通ニ相成申候間、惣代等役人
日懸り余荷御聞届可然奉存候

一御鷹巢原江巢見等登山ニ付宿余荷

一流刑人御扶持米・駄賃御渡之外余荷

〔朱書〕
一御付札

本文役人日懸り余荷ニ懸り候儀指止可申事
丑七月」

一流刑人着類願、并小屋修理ニ付役人日懸り等

一流刑人被達候節宿余荷、并乘牛余荷

一御用ニ付登山之人々籠渡引綱人足賃

一雪中御用ニ付通行人々峠道踏人足

一五ヶ山両組御納所御注進等、惣組方へ付候飛脚賃

一御用所走り給銀

〔朱書〕
一御付札

本文才許身出」

一御用所蠟燭代

利賀谷組余荷

一仙納原村橋雪下シ人足

赤尾谷組余荷

一 朴峠助右衛門方年中柴代余荷

但此分以來為指止メ、相對二仕候ハ、可然奉存候

〔朱書〕
御下札

此ヶ条巨細ニ致詮儀、以來諸郡打銀を以可相渡哉、得与詮儀も
の

御付札

本文引米之義ニ付、井上組等助人馬指出候ニ付、余荷之儀右

八宿々定之馬出切、其上ニ而指支候ハ、助人馬指出候とも余

荷不及、尤宿定之分内なら者宿ニ而可相弁事

一 御家中御引米竹橋・津幡両駅迄ニ而ハ人馬不行届、是迄竹橋駅ハ

井上組方助人馬指出、組方万雜方余荷来申候、津幡駅之儀ハ金津

組・英組・五ヶ庄組方助人馬指出候義も有之、三組方組万雜余荷

来候得共、以來村々方助人馬指出不申様、砺波郡同様被仰渡可被

下候、都而宿切ニ相弁候様可被仰付義与奉存候

〔朱書〕
御付札

本文不敬之儀無之様、家主方可相弁事

一 ばん御鷹野勢子人足并御用船、是迄組万造余荷ニ候得共、以來御

郡万造方可相渡与奉存候

但右ニ付 御小休所掃除方同断可相渡義与奉存候

〔朱書〕
御付札

本文御郡万造ニ而相渡候事

一 御かさり松・根引松・真菰・蓬等、したゆつり葉惣而 御城方御
用之品々余荷、御郡万造書出可申義与奉存候

〔朱書〕
御付札

本文詮儀之通、併巨細ニ可書出事

一 粟生渡場出水ニ而指支、湊江廻候節、長屋村ニ而人足繼仕候余荷、

且又能美郡別宮御奉行所・河原山御奉行所御往来并足輕往来、湊

舟留之節、諸役人・山廻り小松等江御通之砌、道筋村々人馬繼立

余荷、御郡万造江書出可申義与奉存候

〔朱書〕
御下札

本文五ヶ山等義、本文通地廻り分ハ当時詮儀中

五ヶ山ニ御郡万造無之

一 金津組之儀、無高所者組万雜銀割符取立之節、式步余役家ニ取立

来申候、高有之村々ハ七步余ニ相成申候、御郡万雜割之儀都而高

割ニ相成申儀ニ候得者、鉦当り残五組与者從來鉦速申義ニ御座候

間、是迄組万造之振りを以、式步余割当り之余荷取立可申義与奉

存候

下ヶ札

此御付札通ニ而可然奉存候、根元万造之内御改作所へ付候品ハ

高懸り、御郡所へ付候品ハ家懸りニ振分可然、左候得者家懸り

之品撰出、惣様高有無ニ抱、家別ニいたし可申義与奉存候、

併是迄与ハ大袋組又ハ金津組杯之当り相減、外村々当り余斗ニ

相成、不列之義有之候ハ、右組無高所江ハ高有村々之家懸り

之鉦方余斗割符いたし候哉、其御郡々ニ而相当之詮儀伺出可

申義与奉存候

但家懸り之品、一郡引競格別銀高多ニ相成、全家懸りニ而取
立兼候得共、高方方余荷可申義与奉存候、奥郡も同様被仰付

候ハ、可然哉二奉存候

(朱書)
「御下札」

本文無高所も高在村も同様軒割、無高所二限り銀高余斗相成(計)
申義も無之理、高方方余荷不及事

御付札

大袋組万造取立方ハ、勿論不当之品指省キ候上、外組之振
合式万石与欵大綱相定、分限家割二取立、外組高割之所江響不
申様可相心得候事

但右組之限り何与欵謂有之、万造二相立候品も有之候ハ、
抜出可申聞事

又御付札

本文高有之村々ハ、外組同様可取立、無高所ハ高懸り之品
指省、軒割之品迄取立、無高所村々切二而、万造二而可相弁
候事」

一射水郡大袋組之儀、惣而千四百石余ならて無之二付、右組万雑多
分放生津等町立軒割二相成居候、然処右組雑用高も外組高式万石
余有之組も、一組雑用ハ大速も不仕所、御郡高割二仕候而ハ格別
不同二相成候間、大袋組万雑ハ右組より取立、御郡万造割指省可
然哉奉伺候

一奥郡之義、少高二而家数多之処柄も有之、是迄組万雑・御郡万雑
共高・面半々二相立来申候間、以来組万雑指止、御郡万雑之分是
迄之通相立仕候様被仰付被下候様奉願上候

一御鷹匠・御餌指・御鳥見等余荷、以来御郡万造方可相渡義与奉存
候

下ケ札

砺波二而ハ御鷹匠五ヶ山登山之分、右組余荷二相成申候、里組
二而ハ御鷹匠・御餌指・御鳥見等、其村々二而余荷相弁申候、
地廻杯ハ数多之宿方二相成、御郡余荷伺出候旨二御座候

(朱書)
「御付札」

本文御用所二而相用候品々才許身出二而可相弁事」
諸郡

一書物筆筒 硯 算盤 火事手桶

提灯 水篋相損取替并新出来之分

一墨筆 蠟燭 御用所二遣候分

(朱書)
「御付札」

火事家灰除人并出水取防人足、村々相互之義二候得者、詎而余
荷二ハ及間敷、夫二而人足出方指支候ハ、組才許等二而詮儀
之上申渡可指出候」

一火事家灰除人足并小家ケ懸簾等遣候分、且又出水之節急切取防加
勢人足等、是迄組才許二而詮儀いたし、組余荷二而相弁候得共、
以来御郡万造へ書出候時者省略方不行届義も可有御座哉二奉存候
間、火事家二ハ其村二而成限り相弁、大火等二而一村手二及不申
分者、五ヶ村二而相弁可申、夫二而も相弁不申時ハ、御扶持人詮
義二而御郡余荷二立可申、出水之義ハ其組切其川筋村々余荷二仕、
夫二而弁不申時者、御扶持人詮儀二而御郡余荷二立可申事

(朱書)
「御付札」

組々飛脚之儀、伺之通組々二老冊宛、飛脚何々之御用二遣候与
記シ候帳面拵置、年々見届請候上二而、当分右貨銀者矢張御郡

方方雜方取立可申、尤飛脚多寡之儀ハ、才許々々ニ而遂省格、其上御扶持人等ニおゐても右長記を以相互ニ遂吟味可申事」

一組々飛脚之義、其組御用多寡も有之義ニ御座候間、惣体御郡万造

二而ハ省格方不行届義も可有御座哉奉存候間、飛脚賃ハ組々ニ而取立候様被仰付、尤右帳面翌年正月申書出候ハ、可然奉存候

一番代并手伝、手代給銀之儀ハ、其御郡々方御伺可申上候

一御郡所ニ罷在候惣代給銀之儀者、其御郡々方御伺可申上候

〔朱書〕
御付札

本文無組御扶持人召遣候走り給銀五拾目、御扶持人一組走り相兼給銀七拾目、才許十村等之人々走りハ五十目万雜方可相渡事」

一無組御扶持人召仕候走り給銀老人五拾目宛、御郡打銀方取立可申旨奉得其意申候

一無組御扶持人ニ而無之而も御郡首座召遣候走り之儀、右同様五拾目取立申度、一通御扶持人ハ三拾目取立申度奉伺候

一組々走り給銀ハ、其御郡々方御伺可申上候

一老郡首座之御扶持人ニ手代老人増召遣候儀御聞届被下、給銀外手代同様御郡方取立候様被仰付可被下候

一料紙入用高取函、御郡々方追而御達可申上候

〔朱書〕
御付札

本文座料取回り、老度分何程与申儀御郡々方書出、其上詮儀之趣可申渡事」

一金沢ニ而寄合仕候義、一ヶ所ニ取極可申旨奉得其意候、座料之儀ハ御郡方取立候様被仰付可被下候

一遠郡分ハ御郡所ニおゐて寄可申、其節 御筆筭番出役可被仰渡、

右入用方ハ御郡方取立可申旨被仰渡候、御郡所之儀御役所日ニ寄合出来不申候間、御役所日ニ而無之日寄合之儀御達可申上候、指懸り打寄、示合申義ハ同役宿々ニ而寄合可申候、左候得者座料・

料紙之外別ニ入用も相懸り不申義ニ御座候

〔朱書〕
御付札

本文屋根葺替等入用、万雜方相渡候、賄方ハ入用之儀人々方可指出事」

一臨時成限相談所ニ而寄合可申、入用方万雜方取立候義不相成候間、寄合候人々方指出可申旨被仰渡候、砺波・射水御郡相談所屋根葺替等ハ、在来通御郡方取立候様被仰付置可被下候、賄方入用之儀ハ御郡々方可奉伺候

〔朱書〕
御付札

本文新川・奥郡ハ御郡所へ建添等いたし、相談所ニ可致事

丑七月」

一能美郡之儀相談所借揚、年分三百目相渡候、新川・奥郡ハ相談所取極不申候間、以後も能美郡等右三郡在来通被仰付置可被下候、

賄方之義御郡々方可奉伺候

右之通私共相談仕奉伺候間、猶御詮儀之儀被仰渡可被下候、此外之儀御郡々方御伺可申上候、以上

北村与十郎等

嘉永六年六月

御扶持人三十人連名

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

右帳面式冊・添状老通、八月廿九日^{如刻}神田方村送り二而到来、九月朔日未ノ刻新堀江為持遣

※二二頁下段一五行目の傍注は、嘉永六年「御郡万雑取立方凡

例等写」(金沢市立玉川図書館近世史料館・河合文庫一七・

三一八) によって補った。

※嘉永六年六月「万雑方之義二付奉伺申帳」の差出人部分「北村与十郎等御扶持人三十人連名」部分は、新田家文書一〇七〇では以下の通り(二段にして表示)。

北村与十郎	杵木弥助
鈴木次郎作	河合瀬兵衛
石黒源三郎	筒井源之丞
植田村三郎右衛門	多田六右衛門
五十嵐孫作	飯田村彦太郎
毘多市十郎	権正寺村助九郎
廣瀬太兵衛	石崎市右衛門
真館弥左衛門	菊池六郎右衛門
渡辺弥右衛門	川合又右衛門
荒木平助	得能小四郎
伊藤八郎	内嶋村佐次右衛門

11、嘉永六年「万雑方二付被仰渡一件」(抄)

(石川県立歴史博物館・新田家文書一〇七〇)

※天保一一年七月「村万雑取立方高懸・家懸等振分取極候儀奉伺申帳」、嘉永六年「御郡万雑等立方被仰渡一卷」、嘉永六年「万雑方之義二付奉伺申帳」省略。

齋藤庄五郎	神保助三郎
南善左衛門	結城豊次
折橋甚助	石仏村七郎兵衛
嶋孫八	神保嘉一郎

覚

一老貫五百目 組方方出候分

内七百五拾目 今度取立可申銀高

一老貫五百目 主人身出シ

内 老ケ年分

丑七月

相談覚

一附越駄賃ハ諸郡△渡り可申分、四貫式百目御改作所方御振替二付、

余荷之義ハ村余荷之事

一手代給銀

一 雇手代給銀

付り番代手伝佐六相雇候日割

一 雇手代源蔵一日老刃

一 同宗兵衛一日五分

尚々焼飯御持參之事

先達而組万雜指止方等被仰渡之趣ニ付、当廿三日一郡方兩人充罷出、寄合御相談申可然御座候間、同日四ツ時不違吉田屋清作方迄御出可被成候、先々早々御廻可被成候、以上

丑六月廿日

五十嵐孫作

諸郡

御扶持人中様

覚

一 御郡御奉行所

一 御改作御奉行所

一 御作事御奉行所

一 一定檢地御奉行所

一 一堂形御奉行所

右之御人々様御宿飯料御定払之外、老飯ニ付老刃充余荷可相渡、其余御昼ニハ掃除人足并茶・炭代与して七刃四分、御泊ニハ油代共拾式刃老分四厘余荷可相渡、其余諸役人而老刃之外不相渡候事

一手代飯料御定払之外、以来老飯八分充余荷可相渡事

但主人同道ニ而罷出候砌ハ、矢張老刃之事

一 飛脚触登り給銀、組々一統年中銀六拾目ニ取極可申事

一 改方役人中ニ被召連罷越候藤内ニハ、握り飯料老飯ニ付式拾五文余荷可相渡事

丑七月十九日寄合

御郡万雜ニ立候品々之内諸組ニ而

〔朱書〕「御付札」同様之分引統御答申上候

〔朱書〕「本文之通当一作承届候条、尚来春可指図候事

丑十二月」

一 三拾目

走り給銀年分

六拾目半年分

御附札

式拾五刃之事

右半季三拾目ニ而も迷惑仕候得共、私共重々詮儀仕取極申義ニ御座候所、式拾五刃ニ而者弥迷惑可仕義ニ御座候間、何卒三拾目ニ被成置被下候様願上申候

一 備後守様等御通之節遠見人足

御附札

村走り人ニ而可弁事

〔朱書〕「御付札

本文之通可相心得事

丑十二月」

右遠見人足之義、村走りニ而弁候而ハ跡御用指支申義ニ御座候、

何卒御立被下候様奉願候

一同断往還道筋掃除人足

御附札

領付村々方相弁可申事

右往還道之義ハ請取村有之、右様之義相弁候古格ニ御座候所、石川郡之義何時頃方欵、請取村与申義存候者無之、何村請取村ニ候哉知不申ニ付万雜与書出申候、領付村方相弁候御格ニ而者無御座候、依而先達而御郡所江御伺申上、以来之所請取村取極可申候間、此度之分ハ万雜ニ御立被下候様奉願候

〔朱書〕
〔右御付札〕

本文之通り当一作可相心得候、尚来春可指図候事

丑十二月

一御用場ニ用候中折紙并半紙等、且又油・蠟燭、炭書物入箆筒・長持・筆・墨・算用盤・硯箱

御附札

身出し

〔朱書〕
〔御付札〕

本文之通通可相心得事

丑十二月

右之内油・蠟燭・炭・筆・墨・算用盤・硯箱之義身出ニ可仕候、書物入候箆筒・長持ハ万雜ニ御立可被下候、身出ニ仕候得ハ、才許代り有之節、入替申義甚夕混雜ニ御座候、組々江付而廻り候様無御座而者迷惑仕候、紙類之義是ハ身出ニ仕候義、乍恐迷惑ニ奉存候、村々方出候書物公事申分等之外、定式之物迄も不残才許ニ

而調申候、砺波・射水杯与者大二速候、今更村方江申談候而も所詮相弁不申候、半紙之義ハ御用多ニ而過分至極入用ニ御座候、省略仕候様被成候而ハ、早竟御用支之義も出来可仕哉、恐入申義ニ御座候、何卒万雜ニ御立被下候様奉願上候

一拾式匁壹分四厘

御奉行所御泊之節
宿余荷

一七匁四分

同断御昼・宿余荷

右二口御附札

指止可申事

右去暮重々詮義仕、入用書仕入御覽候通ニ御座候、尚更左ニ相記申候

御泊り分

〔朱書〕
〔御付札〕

本文河北郡同様相心得可申事

一四匁五分

掃除并風呂立人足三人

一三匁

買物并小遣人足式人

一壹匁

茶代

一壹匁四分

油式合半代

一壹匁

炭目形壹貫五百目代

一壹匁六分

夜具三人前かり賃

△拾式匁壹分四厘

御昼之分

〔朱書〕
〔御付札〕

本文先達而申渡置候通可相心得候、分役等之人ニ而宿等可相弁、乍去無抛小村等ニ而止宿いたし候節ハ其時々可申聞候事

丑十二月

一三匁七分五厘

掃除人足式人半

一貳匁式分五厘

買物并小遣人足老人半

一老匁

茶代

一四分

炭代六百目斗
拾貫目ニ付六百三拾文かへ

〆七匁四分

右之通御座候而、是程之義者余荷付不申而ハ不相成義与奉存候、猶

更御詮義之趣奉願候

一火事之節人足并高提灯

御附札

身出し

右火事之節指出候組名高提灯并水旗之義、身出ニ仕候而ハ迷惑仕

候間、万雑ニ御立可被下候、人足并蠟燭之義も同様奉願候

〔御付札〕

〔朱書〕
本文巨細ニ可書出候事

丑十一月

一備後守様 御通行之節、御伝馬渡方ニ付、手代并惣代役人暨小遣

人足料

〔朱書〕
〔御付札〕
本文之通承届候事

御附札

小遣人足指止

右小遣人足等指出候分、以来之義ハ私共詮義之趣重而御達可申候

間、今度之分ハ相濟候義ニ御座候間、万雑ニ御立被下候様奉願候

高

一五拾六石

大野村

一百九拾五石

栗崎村

〔朱書〕
〔御付札在来之通り相心得可申事〕

右両村之義、所柄ニ而年中諸役人御用宿等多ク相勤候分、其村切

ニ而相勤、組万雑方余内請不申ニ付、組万雑も指省キ申候事ニ仕

来申候間、以来迎も是迄之通被成置可被下候哉、又ハ右両村高江

も割当取立候時ハ、右両村宿余荷も為書出、万雑ニ立可申哉奉願

候

組万雑指止、御郡万雑ニ而取立候事ニ先達而被仰渡有之候所、当七

月中勘万雑諸郡共前々与ハ大二相減候得共、組々高懸リ甚高下有之、

御郡万雑而已ニ相成候而ハ減候処相見江不申様ニ相成候組々も有之、

如何敷訳ニ付、何卒是迄之通組万雑ニ被仰付被下候義ハ相成間敷哉

与御親申上候処、〔權三郎、改作奉行〕木村様・篠嶋様御相談之上、御郡々与ハ触候得共、

才許々之進ニも相成義候間、石川之義当年方三ヶ年之間組万雑ニ可

仕、尤其時々百石高当り何程与申義可書出旨被仰渡候間、左様御承

知可被成候、尤右様被仰付候ニ付而ハ、弥万端省畧御心得可有之義

ニ御座候、先々御廻自落着御返可被成候、以上

丑十一月廿九日

五十嵐孫作

毘多市十郎様

等六人

覚

一現銀御払米御蔵向早速可書出事

一御郡万雑ニ可立品、早々御書出シ可被成事

一組万雑も早速取懸り可然候、帳面出候而も御付札等二而年内遅ク
可申二付、如斯御座候事、右夫々不指支様仕度御座候、以上

丑十二月五日

孫作

市十郎様
等六人
林組
戸板組
御用所

万雑方并諸郡打銀方ニ付御相談之趣有之、明十三日寄会仕候間、一
郡方御兩人宛口郡番代助次方江四つ時不遅、弁当御持参ニ而御出可
被成候、以上

十一月十二日

得能覚兵衛
五十嵐孫作

諸郡

御扶持人中様

覚

一 式 匁
加役肝煎日懸り銀

一 壹 匁五分
止宿料老人壹宿分

一 壹 匁
手代役飯代壹飯分
但召連候時ハ老人壹匁五分之事

〔朱書〕諸郡窺帳ニ有之御治定之分

一 五 拾 文
諸役人宿余荷老人ニ付、昼
休所分三人以上何人ニ而も百五拾文

但御奉行所御寄有之義ハ、御昼儀ニ不抱余荷三百文之事
一 式 百 五 拾 目 料紙・筆・墨代

但追而取極候迄中勘

一 組々 御参勤等御荷物御転馬賃錢、追而組々遠近ニより賃銀取極
可申事

一 才許村廻り寄いたし候而も三百文、宿荷無之村余荷之事

一 二 百 廿 日 廻り之節、昼・泊リニ不抱寄いたし候分宿余荷三百文、
組万雑相渡可申事

一 用 水 方 御 用 二 付 人 足 召 連 候 分 ハ、已 来 御 郡 方 賃 錢 請 可 申 事

但右者組才許手前ニ而右人足賃錢振分、御郡江可書出、用水方

主附ニ而右用水方ニ召遣候人足賃錢之義ハ用水江下方取立可申

事

一 村 方 御 収 納 明 甚 指 引 相 等 申 義 二 付、加 役 肝 煎 指 遣 候 料 銀 之 義、
其 村 方 取 立、加 役 人 江 可 相 渡 事

安政二年卯七月九日

寄会

〔付記〕史料の調査・閲覧にあたっては、富山大学附属図書館・富
山県立図書館・石川県立歴史博物館・宝達志水町教育委員
会の皆様のご高配を賜った。記して感謝申し上げます。